

# RQ被災地女性支援センター(RQW) 設立からちょうど一年



## 祝・あらたな船出!



試作中!『ホタテのタウン』

「さざほぞ」(和気あいあい)は、RQWの手仕事プロジェクトの拠点として、宮城県登米市の南方仮設住宅から徒歩2分の場所に、2011年10月にオープンしました。(皆様には「タコのアクリルタワシ」でおなじみのことと思います。)この「さざほぞ」が、このたび「東北の暮らしの知恵をコミュニティビジネスとして発信していく」という目的をもって、RQWから独立することになりました。



### 独り立ち!

さざほぞ旧アトリエ (南方仮設2分)



これからの活動は、

- ・手仕事づくり(アクリルタワシのブランド『編んだもんだら』ほか)
- ・食(登米市米山『かのファーム』とともに、コミュニティカフェ『うれしや』の経営)
- ・被災地の今を発信する(上記の活動にまちづくりの視点を加え、さまざまな機会に情報を発信)

の3つの視点から展開していきます。

多くの事業体、活動団体を包括しながらのプロジェクトになりますので、RQWはじめ皆様がたのご協力、ご指導を、今後もよろしくお願いたします。

『さざほぞ』連絡先

宮城県登米市追町佐沼字大綱 218-1 コンテナおおあみ「さざほぞ事業部」  
TEL 0220-44-4210 FAX 0220-44-4202 (担当:岡部、千葉)

Blog:<http://sazahoza.da-te.jp/>



新拠点「コンテナおおあみ」

RQWもシェアオフィスを構える「ビジネスインキュベーター施設」です

## 一年ぶりの ニュース5910



2011年3月、震災発生を機に石垣島から故郷の宮城県登米市に戻り、避難所に物資を配るコーディネートの活動をしていたMOKさんが、タイ留学の帰路に西表を訪ねてくれました。(黒糖しんぶん2号(H23.4.5)でご紹介)

震災時には西表島からたくさんのご支援をありがとうございました。今でもなお、遠い西表から東北を思ってくださることに、島の方々の熱い気持ちが肝に染みました。

自然と共存していくとはどういうことか、自分達にとって何が必要で不必要か見極める目を、島の中の至るところで形となっているのを拝見しました。

東北の復興は時間がかかりますが、復旧期～再生期～発展期となっていきます。西表島のみなさん、是非東北にも遊びに来てください。そして継続的に『すけきた新聞』を発行して下さっているエコツーリズム協会さま、繋がるご支援ありがとうございます。

震災から1年となる3月10日に「ガイアシンフォニー」の上映会がありました。その時会場にいられた、南三陸のおじさんの言葉でしめさせてもらいます。昭和35年のチリ津波も体験し、また去年の津波も体験し、自分の被災体験よりも南三陸町民として数々の支援を頂いたことに感謝します。

「苦難というのは種であって、その種を大きくしていけば『幸福』となる。」 (寄稿)



現在の石巻市・日和山からの眺め

kikou  
ふりかえり企画

## RQ活動年表

震災から3ヶ月がたち、「もう落ちついたんじゃないの?」という声も世間では聞こえて来始めました頃でした。

一方でRQでは、各拠点の特色が出てきて、「また来ました!」という拠点限定リピーターが増えてきました。

生活再建支援

(以降現在に至る) ↓

- 6/1 女性支援センター(RQW) 発足  
唐桑で種カキの挟み込み作業開始  
西表島エコツーリズム協会では黒糖基金を終了、活動支援基金を開始
- 6/4-5 台東区復興支援イベント@上野公園 RQブース参加
- 6/11 唐桑半島「九九鳴き浜」海岸清掃
- 6/14 RQ小泉VC開設  
こどもゆかたプロジェクト受付開始  
RQ唐桑VC 写真洗浄スタート



次回「夏至朔日号」に続く

文責:井上文子(西表島エコツーリズム協会 東北復興支援担当)

we support!

RQ  
災害教育  
センター

「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」改め  
復興支援『すけきた新聞』  
「すけきた」とは  
宮城県登米市あたりの言葉で  
「ボランティアに来たよ」という  
意味である

芒種 朔日